

企画展「町並みと信仰」を開催して
～「中宿の歴史を知る会」活動報告～

門脇 正人

愛荘町歴史研究 第1号 別刷
愛荘町教育委員会 文化振興課
2008年2月

企画展「町並みと信仰」を開催して
「中宿の歴史を知る会」活動報告

門脇 正人

はじめに

近江（滋賀県）は「道の国」と呼ばれる。古代には、東山道・東海道・北陸道が通り、近世においても五街道のうち中山道・東海道が通っていた。愛知川は板橋宿から数えて中山道六十五番目の宿として大いに栄えた。

中宿は愛知川宿の北にあり、宇愛知川と宇中宿の境界は宿の北の入り口であった。多くの人が宿泊する時は中宿も使われたと考えられ、中宿は中山道を中心に発展してきた。

旧愛知川町と旧豊国村が合併して愛知川町が誕生したのが昭和三十年。その頃から四十年にかけては中宿の戸数も八十戸台であったが、その後新興住宅ができ、現在では百五十戸近くまでになっている。また、マンション・アパート・寮もできて、世帯数は平成十七年十一月現在で四百五十九になっている。（a）こうした状況をふまえ、宇自治会でも新しい町づくりに取り組み、宇運営・諸行事などを行っている。

本稿では「中宿の歴史を知る会」が十七年夏に行った「企画展」の報告をし、本会の活動を振り返ってみたい。

資料1 宇民への呼びかけ書類

平成14年10月10日
中宿住民各位
宇自治会会長 日永 正造
研究会準備会代表 門脇 正人

『中宿の歴史』研究会(仮称)への参加者募集について

平素は、宇行政にご協力頂きましてありがとうございます。
近年、いくつかの町や宇で自分たちの郷土を見直そう、歴史を考えてみようという気運が盛り上がっています。愛知川町でも昨年12月から町史編さん感が開設され、『愛知川町史』の刊行が計画されています。
私たちが生活している中宿がどのようにして出来たのか、中山道を中心にどのように発展してきたのか、明治から昭和の時代にはどのような生活をしてきたのか、など知っているようで知らないことは多いように思います。
自分たちの住んでいる地域の歴史を知り、それを次の世代に伝えていくことは、これからの町づくりにとっても大切なことです。宇自治会としまして、町とは別に中宿の歴史を知るための『中宿の歴史』研究会(仮称)を発足させたいと考えています。
つきましては、下記の内容で第1回の会合を待ちますので、趣旨に賛同される方、中宿の歴史に興味・関心をお持ちの方は是非お気軽にご参加頂きますようお願いいたします。
なお、当日都合の悪い方で参加希望の方も門脇(TEL42-5257)までお知らせ下さい。

記

日時 10月27日(日) 19時30分から
場 所 中宿公民館
内 容 『中宿の歴史』研究会(仮称)第1回例会
会の運営について
当面の活動について
昔の様子(燈籠・祭・生活・行事・伝承・遊び・町並み・建物など)
の聞き取り調査
古い書き物・地図・写真・生活用品などの調査・整理 など

一 会の活動と町史編さん室との関係
宇に残る古文書の整理をし、歴史を調べることの必要性について、何年か前から話題になっていった。自分たちの住んでいる地域の歴史を知り、それを次の世代に伝えていくことは町づくりにとっても大切なことだとの思いから発会の準備を開始した。宇の役員会に諮り、宇民に呼びかけ(資料1)をしたところ十余名の賛同者があった。そして平成十四年十月に「中宿の歴史を知る会」が正式に発足した。

ちようど町では町史編纂が計画されている時でもあり、地方史に対する気運が盛り上がっていた。十七年に第一巻が刊行される予定で、各字に「愛知川町史編さん推進委員」がおかれた。宇内各家の資料の有無について調査がおこなわれ、それに協力した。もちろん、宇二名の推進委員は「知る会」に参加した。会では、難しいことを考えずに「とりあえずやってみよう」ということで活動を始めた。原則として月一回の例会を持ち、当面のテーマを三つに絞った。

① 中山道の商店街の再現

② 宇にある古文書の整理

③ 河脇神社の歴史の調査

①については、古いことを知っておられる方から聞き取りをした。そして戦前戦後に分けて中宿の地図を作成した。

②については取り組みだしたが、最終的には町史編さん室で整理していただき一覧ができた。(b)

③については、宇に残る古文書を調べた。古いことについては資料が少なく余り進まなかったが、明治以降についてはいくつかがわかってきた。特に神仏分離令に関して明治初期の様子がわかってきた。しかし、江戸期の「座」や明治期の「神社」の組織など体系的にはまだ解明できていない。

町史編さん室の豆田誠路氏には何度も例会などに参加してもらった。古文書の扱い方・整理方法、宇の文書の調査、古文書

学習会、企画展準備などに来てもらい教えて頂いた。また、町史編さん室が実施した各字の中世、近世の水利関係の調査にも会として協力してきた。会の活動については資料2を参照して欲しい。

町史の第一巻は刊行されたが、それ以上に作成過程におけるこうした諸々の働きかけが、各字や町民に対して大きな刺激になっていることは喜ばしいことである。

二 企画展の計画と準備

会ができて、私たちの意識も変わった。古いものを保存する、宇内で捨てるものがあれば一応声をかけるところまでにはなった。捨てられかけた「看板」をもらいうけたこともあった。

そのうち、「会は何をしているのか」ということを宇民に知ってもらうため、なんらかの場を持ちたいとの声が多く挙がった。

展示することを目的に活動していたわけではなかったし、資料が少ないことや力量不足でこれといってまとまっていなかったが、今までに少し分かった中山道の町並みや河脇神社等の調査について発表することにした。

初めてのことであったので、どのように展示したらよいか、大変苦労をした。

まず、なんでも並べるのではなくテーマにしたがって展示しようと考えた。「企画展 町並みと信仰」と名付け、できたら

今回だけで終わらないようにとの願いもこめて「第一回」とした。

字の公民館で実施するのだから、展示ケースなどはない。町の公民館に「びん手まり」が飾られていたケースがあった。それを借りてはという案もあったが、重量もあり、結局アクリルのケースで資料をかぶせることになった。それらは、愛知川図書館や能登川博物館で借りることができた。また、図書館にはアクリル板があつて、それを古文書などにかぶせた。仕事量は少なく扱いやすかつたから、結果的にはうまくいった。

展示する資料はできるだけ本物（現物）がいいので、宮川家文書や「中宿村地券取調総絵図」は町から借りた。竹生島文書「蓮華会頭役門文録」については、写真を借り、借用書や許可願もきちんと出した。

木造弁才天像については、かなり気を使った。山下立氏（県立安土城考古博物館）に調査を依頼した。事前に像の裏に文字が入っている事はわかつていたが、それらも確認でき、「蓮華会頭役門文録」との比較もできた。太田浩司氏（長浜城歴史博物館）にもご教示頂いた。

また、チラシを作り、字の配布物と共に組長を通じて各戸に配付した。字の広報紙を通じて宣伝もした。

展示に来てもらったら展示解説のパンフも必要だろうということになり、何度も原稿を論議しながら作成した。内容は展示会の趣旨・町並みの地図・神社関係の調査過程・展示一覧などで、図や写真も入れてB5判八ページのものができた。

できるだけ費用を使わないようにしたが、字から補助金を頂いた。その他、印刷や運搬にも字の方々に助けて頂いた。いろいろの方面からの協力でできた企画展であった。

三 企画展の内容

町並み

愛知川の中山道筋は明治時代になつても大変栄えた。昔は中宿にも商売をしていた店がたくさんあつたということが話題になつた。平成十四年に町商工会が「愛知川商店街のむかし」という企画をされたので、それを参考に中宿でも調べてみることにした。戦前と戦後なら記憶間違いも少ないだろうと考え、昭和十年代と二十年代の中山道沿いの店という限定をして調査した。

十五年七月に五人の方々に寄つて頂いて聞き取りをし、模造紙二枚大の地図ができ上がった。戦前と戦後の二枚になつた。

店の看板を探したが、ほとんどなかった。葉屋さんの表にあつた葉の広告の看板を借りることを考えていたが、直前に盗難にあつてしまった。会員の中で幸いにも写真を撮つていたので、それで代用した。古い写真も地図に貼り、わかりやすくした。

一軒一軒訪ねて聞けばもっと正確なものができたのかも知れないが、それでもこの企画は好評であつた。今後、これをもとにして改訂していきたいし、明治・大正時代にさかのぼって調べられればもっと面白いと思つている。

町史の資料収集で中宿の宮川家の文書が調査され、その中に天保十三年（一八四二）に中宿で商売をしていた人の名前が載っている。「往還筋村方にて商売致候者名前帳」があった。それによれば十人が商いをしていることがわかった。内訳は茶屋商売二、荒物商い二、饅頭商い二、菓子商い一、紙商い一、煙草商い一、古道具商い一であった。

明治十三年（一八八〇）の『滋賀県物産誌』の中宿の項には、「地勢平坦道路広潤にして車馬の往復尤も便なり」「人口二七人、戸数四八軒（うち農家三二軒、鍛冶業一軒、商家一五軒）」とあり、商家は蚊帳・麻布商として他国へ行売をしていたと記載されている。

これらの資料により江戸時代、明治時代の様子がわずかだが垣間見られた。

河脇神社

古い資料は残っていないが、明治十三年の『河脇神社諸掛立會帳』に由来が載っている。この『立會帳』には明治十三年から四十四年までの神社関係の会計が記されており、その前の部分に由来が記載されている。特に明治維新前後のことが詳しく書かれ、「履歴編輯 高田吉兵衛識」と記載されている（資料3）。

その由来とほぼ同じものが『河脇神社原由』として巻物になって高田家に残されている（一）。

それらによると、河脇神社は大国主命、少彦名命を祭神とし

ている。

昔、愛知川は今の流れと違って中宿から稲枝の方に流れていた。上にある御河辺神社（東近江市神田町）、中の河脇神社、下にある川桁神社（彦根市出路町）が愛知川脇の三社として知られていた。

なお、『淡海木間撰』には「かつて愛知川が南北二流に分かれていた頃、その両川の間中に位置していたため中宿とよばれた」との記述がある。

江戸時代、河脇神社は白山大権現と言われ、「白山大権現」と書かれた「大釜」も存在している。また、江戸幕府が文化三年（一八〇六）に出した「中山道分間延絵図」にも「白山」という記述がある。

明治時代になって神仏分離令が出され、それまでの神仏習合、神仏混淆を禁止し神社から仏教色を排除した。権現という言葉も禁止され河脇神社と称するようになった。

弁才天

天保五年（一八三四）、宮川市左衛門氏と蓮泉寺住職曹源和尚の発意尽力で弁才天社が現在地に建てられる。御神体は竹生島から移されるが、明治になって神仏分離令により蓮泉寺に預けられることになる。

この弁才天には、「文化十四丁丑年 浅井郡大浦浜 後頭 磯井儀左衛門尉」という銘文がある。竹生島の弁天信仰を象徴するものに天下太平・五穀豊穰を祈って毎夏執行されている蓮

華会がある。現在ではかなり簡略化されているが、かつては湖北浅井郡の富豪から選ばれた祭礼の頭人が、新たに弁才天の像を造立し、これを島に奉納することが行事の中心になっていた。永禄四年（一五六一）から嘉永六年（一八五二）までの蓮華会頭役の名を記したものに「蓮華会頭役門文録」（竹生島文書）があるが、その中の文化十三年（一八一六）十二月の項に、頭役として選ばれた磯井儀左衛門の名もある。

これらのことから、文化十四年に大浦村（伊香郡西浅井町大浦）の磯井儀左衛門が竹生島に弁才天を奉納し、それが天保五年に中宿に下賜されたと考えられる（二）。

現在は御神霊として唐櫃を納め嚴姫尊（「原由」では市杵鳥媛）として祭られてる（三）。

地藏堂の建設

明治二十八年（一八九五）八月に宇の青年有志が地藏堂の新築に取りかかるが、そのことに關する図面や書類一式が残されている。

それによると、もともと地藏堂は蓮泉寺にあつたが、古くなり新築をすることとなる。そのため寄付を募り、土地は高田吉兵衛氏から無償で借り入れる。

請負大工は（旧五個荘町）石川の田中彌惣吉氏で、工事は八月に着工する。九月二十九日に愛知川警察署に「建築御願書」が出され、九月二十九日から十月十三日まで中山道に足場を取り付けている。十月二十七日に街路使用が出ていたので、この

日に入仏式が行われたものと思われる。

寄付金などの収入は七十七円二十六銭一厘で、支出は七十四円九十六銭一厘。うち堂宇一式五十円が棟梁に支払われている（四）。

その他

江戸時代七五点、明治時代以降六〇二点の「中宿区有文書」の一部や、会の活動状況が紹介されていた町の広報も展示した。

また、昭和五十六年（一九八一）秋、平成十六年（二〇〇四）春の河脇神社の祭礼風景のビデオを上映した。昭和五十六年には子ども御輿が寄贈された記念として秋祭りにも御輿渡御が行われた。後者は、御輿の組立・飾り付け、神事、渡御などの記録である。

四 企画展の実施

八月二十六日に最終の準備をし、二十七日（土）十時から十七時、二十八日（日）十時から十四時まで中宿公民館で企画展を開催した。主催：中宿の歴史を知る会、後援：中宿自治会、協賛：愛知川町教育委員会事務局町史編さん室、協力多数で実施した（資料4）。

多くの人に来てもらえるかという心配もあつたが、約一〇〇名の方が見学に来られた。昭和五十六年秋祭りの様子を撮影したビデオの上映は好評であつた。亡くなられた人や、今は大き

くなった子ども達が映し出されると、そのたびになつかしうに声があがっていた。

総選挙直前だったが、「みんなの滋賀新聞」（八月二十八日）、「中日新聞 滋賀版」（八月三十日）に記事が掲載された。また、「広報えちがわ」（十月号）「TOWN TOPICS」欄、「愛智の雫 40」欄にも紹介された。

おわりに

今回の企画展を振り返ってみて、初めての試みとしては成功したと思っっている。特に「町並みマップ」やビデオは好評で、その後いろいろな人に会ってもその話題が出てきた。字の人たちに私たちの活動が知られたという意味でも企画展を実施してよかったと思っっている。

個人的には、弁才天の歴史がわかったことが非常に有意義だったと思う。このような形で下賜された弁才天は他にもあるかも知れず、竹生島信仰を考える上で重要な発見になればと思っっている。

会の活動は、当初から展示を目指したのではなかった。しかし、展示をすることを計画してから本当に会員がよく活動した。テーマを設け、研究を掘り下げていくことが、会の活動を活性化させるためにも重要になってくる。地域の資料から、大きな歴史が見えてくれば、望外の喜びなのだが。

企画展以降、九月・十月は秋祭りや運動会が行われるため例

会は休止したが、十一月には鳥居本宿く柏原宿に出かけ、中山道の研修をしてきた。

まだまだ説明しなければならぬことやわからないことがたくさんあるが、これからも息長く聞き取りや古文書の整理・解説に取り組みたいと思っっている。そして何よりも歴史に興味をもち楽しんで参加できる会にしたいと思っっている。第二回企画展にむけて再び歩み出したいものである。

註

(一) 「由来」も「原由」も実際に筆を執ったのは吉兵衛氏の娘婿吉右衛門氏だと考えられ、高田家にも同じものを残したと考えられる。吉右衛門（旧名は小杉卯平）氏は旧湖東町大沢（現東近江市）の小杉家から高田家に入る。『宇誌私たちの大澤』（平成十七年一月）には小杉卯平氏が書いた文書が載せられており、同じ筆跡と考えられる。なお、吉兵衛氏、吉右衛門氏は愛知川村長も務めた。

(二) 竹生島は、江の島・安芸の宮島とともに弁才天三霊場の一つとして古来より知られている。また、西国三十三所の観世音霊場としても知られている。

竹生島宝厳寺には多数の弁才天像があるが、蓮華会の時に奉納され信者の要請で下賜されたものも多くあると見られている。中宿の場合はその例と考えられるが、全貌は明らかでない。

なお、それらは室町く江戸初期には平方仏所（長浜市平方町）で作られていたと考えられているが、江戸後期には京都で作ら

れていたようである。中宿の弁才天は京都で作られたと考えられる。

また、蓮泉寺に祀られている弁才天は御厨子に入っているが、それには「大正三年六月 田中源治」と書かれている。

参考

『特別陳列 大黒天と弁才天』（滋賀県立琵琶湖文化館 一九九一・三）

『特別展 竹生島宝厳寺』（長浜市立長浜城歴史博物館 一九九二・一）

『特別展 戦国・安土桃山の造像—仏像彫刻・懸仏編—』（滋賀県立安土城考古博物館 二〇〇四・一〇）

(三) 小宮さんとしてもう一つ猿田彦がある。山田七郎兵衛氏方に祭られていた庚申社を天保時代（一八三〇〜四三）に宮地に移された。神仏分離令により蓮泉寺に預けられ、そのあと唐櫃を納め猿田彦神社として祭られている。なお、蓮泉寺に木造青面金剛像があるが、庚申社に祭られていたものではないかと思われる。

十七年の夏に二社の修理が行われ、十一月三日に落慶法要が行われた。弁才天もその日は元の場所でも祀られた。

(四) 「蓮泉寺境内之図」（明治二十九年）の右下部分に、新しくできた地藏堂が描かれている。これは蓮泉寺に銅板だけが残っていた。どうしたら見られるかあちこちで聞き、最終的には能登川中学のプレス機で刷ってもらった。これには光彰館製版明治二十九年とあり、他の神社・寺院のものと図柄は一定で、

この頃いっせいに作られたのではないかと考えられる。

（中宿の歴史を知る会会長、愛知川町史編さん推進委員）

資料3 河脇神社由来の一部（『諸掛立會帳』より）

當村氏神祭神大國主命ハ從往古河脇神社ナルヲ以河脇大明神ト敬フ其故ハ愛知川脇ノ三社ニシテ上ハ御河邊（神田村）中央河脇（當村）下ハ河桁（出路）ナリ（年曆不詳愛知川大洪水ノ砌神寄郡中へ川ヲ避ケ方位變ル）然ルニ中古或ル禪僧ノ取持ニ因リ白山大権現ト敬フ當村蓮泉寺ニモ其辺ノ事認メアル趣ナレトモ之ハ村中ニハ不存其實禪僧ノ周旋ニ因ルガ故ト存スルナリ一明治維新神佛混交御調へ分ケニ付白山大権現ヲ廢シ素ヨリ河脇神社ナルヲ以河脇大明神ト敬フ

一祭神右大國主命鎮座ナルヲ以テ御相殿ニ少那彦名命ヲ勸請シ奉ルヘク謂ヲ以二柱ノ神靈ヲ勸請奉リ度村中一致スルナリ一京都神祇官へ上願ス

官長白川神祇伯資訓王殿

副官西川吉輔殿（近江八幡町ノ産ニシテ高田吉兵衛山本村稻本覚兵衛等別懇ナリ）同宇津木久岑殿（近江彦根士族ニシテ右兩人ノ別懇ナリ）此副官兩名ノ在勤ヲ僥倖トシ事實ヲ運ヒ當村河脇神社ノ由緒ヲ以神靈勸請ヲ奉願候ナリ

慶應四年一月廿日即改号明治元年ナリ

右願書差上候処御預リノ上當村ノ成立河脇神社ノ由緒實況等

御尋ノ義副官兩人ヨリ稻本氏へ書面ヲ以毎々御尋越ニ付其都度高田氏稻本（方）へ來リ遂一履歴ヲ認メ其手準ニ尽力シ京都へ相送り候於御殿御聽屈ニ相成神靈（八華形ノ御鏡）大和錦ノ御袋入八足檀等ノ御拵方ノ様子等追々圖面御書翰ヲ以被仰聞ノ次第ヲ件々御返答申上然ルニ其頃幸ニナル哉宮川彦一郎為商用京都に留ニテ同人進テ之ヲ擔當シ白川殿ニ數度參昇殿ニモ拜謁御盃ヲ賜フ諸事尽力セラレ候内御成就相成候御沙汰ニ付其御迎トシテ氏子惣代宮川彦二郎大橋清平兩人上京白川殿へ參上候処諸官員列席殿モ御出座ニテ兼テ差上置書面之趣猶一應御尋被遊候義ヲ都合能上伸（申）相濟願ノ通御聽上ケ相成其御拵中兩人差扣へ居萬事御成就ニ付白川殿江來昇候処御殿ノ構造美ヲ尽シ今當村へ御勸請申所ノ御神靈神櫃ヲ八百萬ノ神前ニ御備ハシ神供ノ飾リハ五色ノ玉串御酒鏡洗米其外山海ノ珍味百味ノ御食ヲ備へ數人ノ神官音樂ヲ奏シ御祭典大禮式ヲ行ハセラレ其結構ハ紙筆ニ難尽候其祭典終テ當村各座へ神拜式ノ折紙ヲ授與セラレ兩人へハ殿ヨリ圭器ノ御盃ヲ賜ル尤當各座へ折紙御盃則土器熨斗昆布ヲ賜既ニ兩人代勤シ之ヲ奉請歸ラルナリ夫ヨリ神靈ノ御唐櫃ヲ白木ノ二重箱ニ納メ差持ニ仕立白川殿ノ繪符ヲ建テ御殿ヨリ御所境町御門外迄供奉御見送り有リ夫ヨリ當村ノ者警衛御供シテ迎ヒ帰ラレ當村中ニハ兼テ待請ケノ義ニ付道中ヨリノ注進ニ隨ヒ武佐宿込村役人不殘御迎ヒニ參ル續テ村中追々道筋へ迎敬シ行列ヲ尽シ帰村社殿ニ納メ奉齋シ續テ當村河脇神社ノ祝祭ヲ行ヒ丁寧ニ其式ヲ成ス

辨財天社 創立由来

一辨財天奉勸履歴ハ天保五年甲午春頃ヨリ宮川市左衛門蓮泉寺住職曹源和尚此兩人ノ發意尽力ニ依リ村中ノ人氣一致シ三月氏神祭禮後ヨリ取掛リ該池地堀石垣積御宮建成就シ御神舩ハ兼テ志願ノ竹生嶋ヨリ御移シ相成御神舩ハ極彩色蓮臺ニ安座シ給フ至極結構ナリ御宮遷ノ祭典ニハ曹源和尚從僧數人ニテ大般若讀經有リ村中ハ例祭ヨリモ種々事ヲ增御神樂ヲ奏シ祭典式ヲ行フ其振ハイハ一方ナラス夫ヨリ毎年八月十六日祭日ト定メ連綿相續仕來ナリ然ルニ明治維新神佛混交御調分ケ有之処右ノ如ク神舩御彩色蓮臺安座ニ付維新ノ御成規ニ支ヲ以蓮泉寺へ預ケルナリ後ハ暫ク御幣ヲ納メ拜シ居候処神官元大門村中居氏ノ周旋ニ依リ明治十五年三月御神靈ノ唐櫃ヲ納メ嚴姫尊（市杵島媛）ト敬神如例祭禮執行奉齋セリ

庚申社

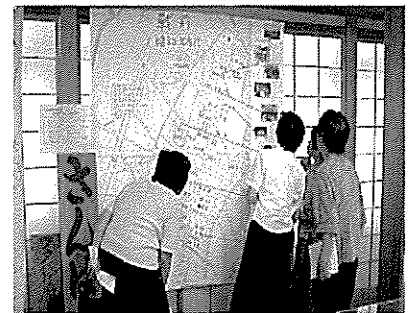
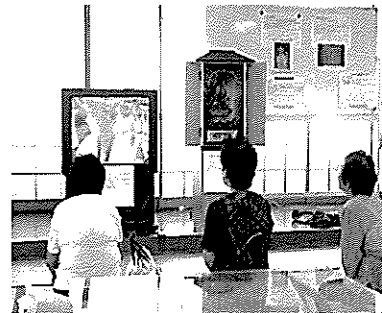
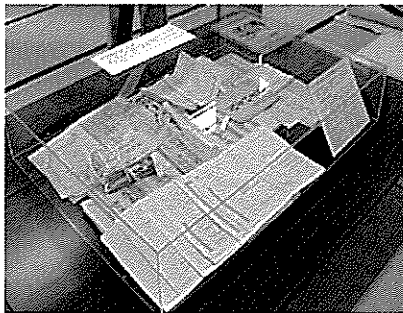
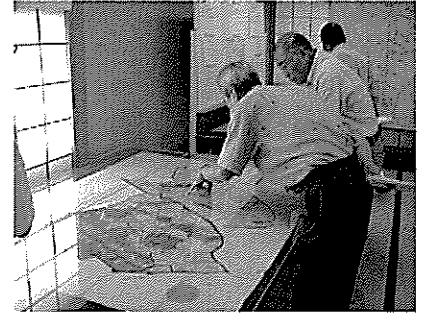
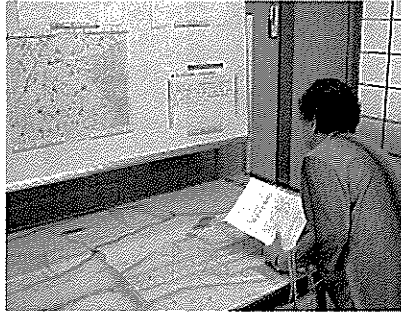
一庚申社ハ元當村山田七郎兵衛方ニ自祭アリシヲ天保年曆ノ末頃御宮地へ祭り替へ夫ヨリ村中持ニナリ敬神祭礼ス然ルニ明治維新神佛御調分ケ有之処御姿佛舩ニ因ルヲ以蓮泉寺へ預ケ跡へ辨財天ト一切同様中居氏ノ周旋ニテ神靈御唐櫃ヲ納メ媛田彦ノ神社ト敬祭ス

（（）内は『原由』による）

資料 4 展示資料一覽

- 1 中山道商店街再現図（戦前昭和十年代、戦後二十年代）
看板（さんば羽田ツル・フタバ写真館）、写真十枚
- 2 「愛知川宿より下往還筋村方ニ而商売致候者名前帳」および附図
天保十三年（一八四二）六月（宮川家文書）
- 3 「近江国愛知郡中宿村絵図（慶應二丙虎二月改之）」
（中宿区有文書） 江戸末期（一八六六）の絵図。
- 4 「中宿村地券取締絵図」（明治六年一八七三頃）（愛知川町蔵）
陸地測量部地図「愛知川」。明治二十六年（一八九三）
測量の二万分の一の地図。
- 6 『淡海木間櫻』中宿村の項のコピー
塩野義陳著 田中信精校訂 寛政四年（一七九二）成立。
- 7 『近江愛智郡志』河脇神社の項（中宿区有文書）
中川泉三編著 愛知郡教育会 昭和四年（一九二九） 和綴じ
- 8 「河脇神社諸掛立會帳」（中宿区有文書）明治十三年（一八八〇）
9 「河脇神社原由」（高田家文書）
- 10 釜（河脇神社蔵）
- 11 「中山道分間延絵図」複製（個人蔵） 文化三年（一八〇六）
木造弁才天座像（蓮泉寺蔵）
- 12 弁才天背面写真
- 13 「蓮華会頭役門文録」（文化十三年、十四年の部分の写真 竹生
島文書）
- 14 「蓮泉寺境内之図」（明治二十九年一八九六）（蓮泉寺蔵）
- 16 巖島神社の瓦
- 17 「神禮社内規則」（中宿区有文書） 明治三十八年（一九〇五）
一月
- 18 地藏堂新築関係文書一式（中宿区有文書）明治二十八年（一八九
五）
- 19 「中宿区有文書」の一部
- 20 ビデオ 昭和五十六年（一九八一）秋、平成十六年（二〇〇四）
春の河脇神社の祭礼風景のビデオ上映。
- 21 「広報えちがわ 愛智の滴 24」（コピー） 平成十六年七月号

「企画展」の風景



追記

この文章は『愛知川町史編さん研究第4号』のために書いたもので、平成17年12月に脱稿した。

原文はそのままにし、註a～cを追加した。

a 平成19年10月現在で460

b 愛知川町古文書調査報告書第一集『愛知川町内区有文書目録－中宿・長野西－』（愛知川町教育委員会 2005年12月）に纏めてある（A、B群とC群の一部）。

c 平成18年以降の活動記録（次頁の表参照）

編集より

執筆者の門脇正人氏には現在、愛知川町史編さん委員会会長として編さん事業の様々な面でご助言をいただいております。

(資料2) 『中宿の歴史を知る会』活動日誌

平成14年9月16日	準備会	組織・内容・名称、字役員会の了解、字民への案内チラシ
10月8日	準備会	経過報告、第1回例会次第検討
10月27日	第1回例会	趣旨説明と経過報告、役員決定、3つのテーマ設定と班編成
11月16日	第2回例会	3班の班長決定、各班の報告
12月15日	第3回例会	豆田氏による「古文書整理」の学習会
平成15年1月19日	第4回例会	「町並み再現」中間報告、古文書整理
2月16日	第5回例会	「町並み再現」中間報告、「地景御届書」解説、古文書整理
3月9日	第6回例会	「立会養水理不尽告訴」解説、「行政変遷年表」配付、古文書整理
5月11日	第7回例会	古文書整理、成果の発表の場を
6月15日	第8回例会	「神礼社内規則」「儉約方法」等解説
7月20日	第9回例会	「町並み」聞き取り(5名)、豆田氏「中宿文書の整理について」
11月17日	第10回例会	「町並み聞き取り」整理・議論
平成16年1月24日	第11回例会	豆田氏「中宿文書整理の経過報告」「古文書の読み方」
2月19日	第12回例会	「講名の義」「地所売券証」解説、「神礼社の歴史」解明の必要性
3月23日	第13回例会	神社関係について討論
4月15日	第14回例会	「区長一覧昭和30年～」、豆田氏参加
5月21日	第15回例会	「河脇神社原由」(高田文書)解説
7月26日	第16回例会	「祭礼の思い出」聞き取り(女性4名)、「神社文書」解説
8月4日		水利関係聞き取り(町史編さん室)
8月5日		水利関係聞き取り(町史編さん室)
8月26日	第17回例会	聞き取りまとめ、「小字境界」報告、「ニヶ村合併」解説
8月30日		「耕地整理組合地図」の修理について(見積もり)
10月18日	第18回例会	「神礼社議事録」の要約、地図修理について
11月8日	第19回例会	「字行政組織、諸団体の沿革」資料探索
12月7日	第20回例会	「庄屋、戸長、区長等の名簿」「五人組規約」報告
平成17年1月14日	第21回例会	来年度事業検討(夏に展示を行う)、自治会への要望
4月10日	第22回例会	展示内容の検討、弁才天について、「愛知郡誌編纂資料」配付
5月11日	第23回例会	企画展テーマ「町並みと信仰」に決定、「地蔵堂関係文書」配付
6月8日	第24回例会	企画展実施内容の検討、「五人組組織」配付
6月25日	第25回例会	展示品の確定、役割、予算について、「立会帳」解説、豆田氏参加
6月25日		蓮泉寺で「弁才天」調査、写真撮影
7月4日	第26回例会	経過報告、「広報中宿」に掲載
7月23日	第27回例会	経過報告、「図録」案内チラシ検討、豆田氏参加
8月3日	第28回例会	経過報告、「図録」「チラシ」「会場レイアウト」検討
8月8日	第29回例会	経過報告、「再現図」最終確認
8月12日		準備(町並み再現図作成)
8月22日	第30回例会	最終確認、準備日程
8月26日		準備(借用、展示)
8月27日		企画展第1日
8月28日		企画展第2日、返却、反省会
8月29日		返却
11月18日	第31回例会	中山道をゆく(鳥居本宿～柏原宿)
平成18年2月10日	第32回例会	会計報告、書籍の紹介、本年度事業検討、新年会
4月14日	第33回例会	土山宿・関宿研修旅行
5月15日	第34回例会	明治時代の村自治・規約・学校・生活等を今後の課題とする
5月22日		河脇神社調査(町史関係)、自治会文書整理
6月19日	第35回例会	「村吏勤役名簿」「村中五人組申合規則書」読解
7月18日	第36回例会	自治会文書を「目録」によって整理(A、Bは照合、Cは未整理)
8月28日	第37回例会	自治会文書の整理、C(地図等)の整理
9月7日		大木氏とCについて協議
9月25日	第38回例会	明治初期の学校制度について、未整理部分について(大木氏報告)
10月30日	第39回例会	「小學校設立方法申立書」等解説、愛知川宿本陣帳簿(大木氏報告)
11月20日	第40回例会	『学制百年史』を参考に明治初期の学校制度について議論
12月18日	第41回例会	学校設立の資料配布、「村中懲戒規則」「古物商、賭博犯…」等解説
平成19年2月11日		「結婚・出産」について聞き取り(町史関係)
2月11日	第42回例会	「中宿村道法」解説、賭博についての資料配付、本年の計画、新年会
3月19日	第43回例会	干支について、「天明後米一俵価格表」「愛知川小記念誌カバー」配布
4月21日		『近江愛知川町の歴史』第四巻発刊記念(講演と座談会)
5月14日	第44回例会	「知る会通信」の刊行について検討、「勝馬自動車」について
6月21日	第45回例会	「知る会通信」の検討、題字を『近江国中宿村』とする
7月7日		『近江国中宿村』第1号刊行
7月16日	第46回例会	「乍恐以書付御申上候」(女乞食相果…)等解説
8月22日	第47回例会	「諸事留記」解説、「史料県令簡手田安定 I」より資料配付
9月17日	第48回例会	「明治12年 戸長職務条條例」解説
10月15日	第49回例会	「明治11年中宿村諸入費取調書」解説、今後の研究内容の検討
11月14日	第50回例会	各自の研究内容について決定・資料選び

